

第5章 整備の基本理念と基本方針

第1節 大御堂廃寺跡の整備テーマ

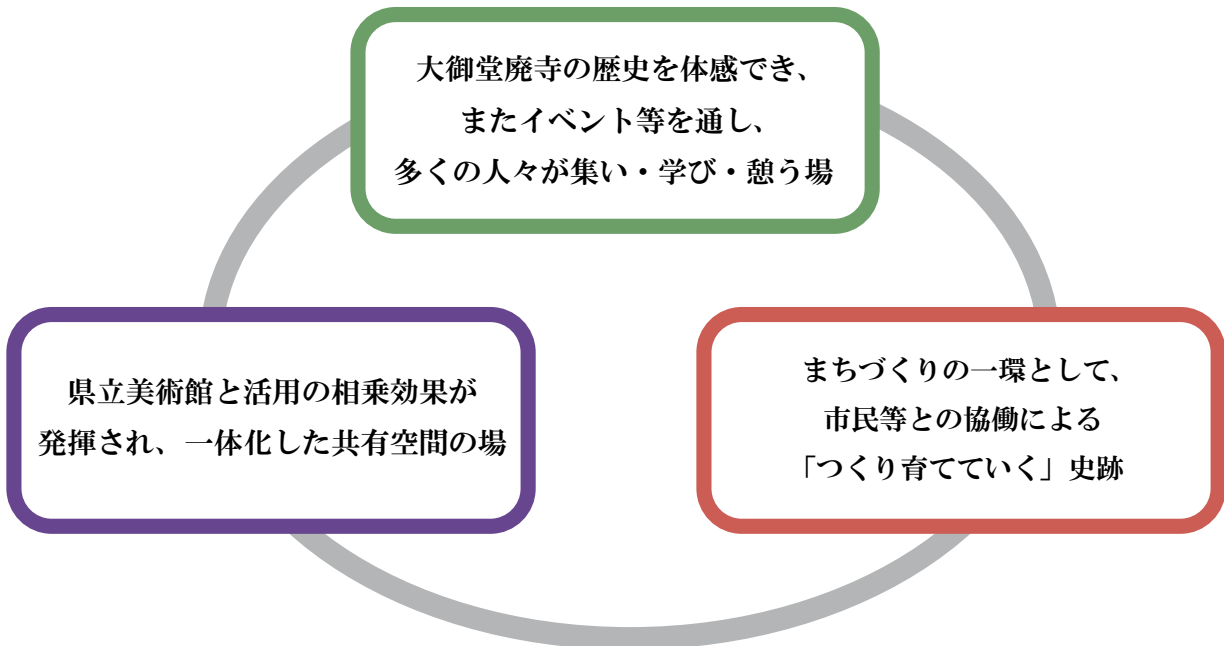
大御堂廃寺跡の特性を踏まえた大御堂廃寺跡の整備テーマは次のとおりである。

—— 感じる！伝える！！ 山陰が誇る大伽藍と仏教文化 ——

大御堂廃寺跡は、7世紀中頃の創建と推定される山陰最古の古代中核寺院である。寺院地内は大規模な整地が行われ、主要堂塔をはじめ地方寺院では珍しい僧房や築地塀が備えられており、大規模かつ整然とした川原寺式（観世音寺式）の伽藍配置であった。山陰唯一の蓮華文鬼瓦や正倉院宝物に類する銅製匙、新羅の銅で造った精巧な獣頭など、優れた仏教文化を物語る仏具が出土している。

第2節 基本理念

史跡の整備は、その本質的な価値を国民共有の財産及び地域の宝として、確実に保存・継承をしていくことを前提とする。本史跡の整備にあたっては、地下遺構を傷つけることの無いよう十分に注意し適切な保護措置をとりながら進めるものとする。そして、地域住民や来訪者が理解しやすく、親しみが持てる「学びの場」、「観光・交流の場」、「憩いの場」などとして、多様かつ積極的な活用を図るため、整備の基本理念は次のとおりとする。なお、この整備は史跡指定地及び市有地にて行うものである。



第3節 基本方針

基本理念を実現させるため、大きく以下4つの整備を行う。

1 大御堂廃寺跡の本質的価値を確実に保存・継承するための整備

大御堂廃寺跡の歴史を後世へと伝えていくためには、まず第一に地下遺構の確実な保護を図らなければならない。必要に応じて遺構面の保護策や表土流出防止策等を講じる。

2 大御堂廃寺跡の本質的価値を顕在化させるための整備

大御堂廃寺跡の価値や特徴、かつての姿などその歴史を体感できる分かりやすい整備をハード・ソフト両面で行い、史跡を訪れる人々の学びの一助とする。伽藍建物の規模が現地で理解できる遺構表示や復元展示、遺跡の理解を深める説明板の設置、発掘調査で出土した遺構を3DCGにより立体的に復元し視覚的に理解できるARの活用、ガイダンス施設での展示、解説ソフトシステムによるガイダンス機能の充実を図る。

3 大御堂廃寺跡を公開・活用するための整備

倉吉市のまちづくりの一環として、またSDGs（持続可能な開発目標）の理念に基づき、市民協働による持続可能な整備を目指し、その協働のもとに「つくり育てていく」史跡とする。

便益施設やガイダンス施設等は、史跡指定地内及び隣接する市有地の適所に整備するよう検討する。広場や園路、休憩所、駐車場、トイレ、四阿といった関連施設を結ぶ誘導についてはバリアフリー化し、サインはユニバーサルデザインを取り入れたものとして、多様な人々が集い・学び・憩うことのできる施設とする。

4 県立美術館をはじめとする周辺環境を活かした整備

倉吉市の中心市街地に位置するという好立地を活かし、魅力的な景観・環境を目指す整備とし、より多くの集客を図り、多くの人々と協働したまちづくりへとつなげる。

また、県立美術館との双方向の交流を促すような一体化した共有空間として感じられる整備とし、さらなる文化拠点としての充実を図る。